

平成30年度 江津市立高角小学校 学校評価書

学校教育目標「豊かな心とたくましさを持ち、確かな学力をみにつけた子どもの育成」

- 認め合う子ども
- 高め合う子ども
- 元気な子
- 感じる子

- 評価の基準
- 1:ほとんど達成できていない
 - 2:3~4割程のみ達成できた
 - 3:6~7割程達成できた
 - 4:ほぼ達成できた

取組の重点	重点項目(目標)	目標達成のための計画(成果・取り組み指標)		評価				現状・課題・問題点	改善策	保護者の意見	地域の方の意見	自己評	評価委員意見	評価委員総合評定	
		具体的方策	評価観点	学校	保護者	児童	地域								
認め合う子	自分や友だちの良さを認め合う場を意図的に設定する。	各教科の学習や学級活動の中に、互いに関わり合い、理解し合う場面を設ける。	お互いを認め合い、友達との良い関係を築き、継続してこうしているか。	3.2	3.4	3.6		・よさ見つけはできるようになった。一方で自分の気持ちのみを考えた行動があり、わがままやふさわしくない言葉もある。	・児童による自主的な活動のためのガイド学習と取り入れる。	・いつもお世話になっております。先生方には本当にこちらの要望に、しっかり受け止めてくださり、ありがたい事だなあ〜とみんなで言っています。ありがとうございます。		B	・少子化の影響でわがままに育っており、自分本位が多いようだ。特定の友だち同士は良くしているようである。 ・目的を達成するために各種工夫を行っておられることに敬意を表する。	B	
	道徳の時間を要として、道徳的な心情や実践力を育てる。	自分の思いを語り合う道徳授業の実践を目指す。	道徳的な心情や実践力が育ち、ふるまいに表れているか。	2.6	2.4	2.8		・発表や意思表示はできるようになったが、道徳的な心情が育ち、ふるまいが向上したとはまだ言えない。 ・実践力の育成という点では、十分でない。特に、他者を意識する、公共の場でのふるまいという点では、社会性が育っていない。	・ねらいを達成するには資料の選定が重要である。副読本以外の資料にも目を通し検討していくとよい。 ・道徳と他教科の関連を計り横断的に扱うように指導者が心がける。	・担任の先生はもちろん、他の先生方にも気にかけてもらっていることを実感しております。先生方に認めて頂くことで子ども自身がいいところを伸ばしていけるのだと思います。 ・校長先生が授業の様子等、よく見てまわっておられると子どもから話を聞き、気配り、目配り、心配りをしてくださっていると感じました。子どもの話を聞いているところを伸ばしていけるのだと思います。		C	・近年個人主義的で、他人事で見えぬふりをされることが多いのではないかと。勉強や遊びの中でも協調して学ぶことも大事であり、他人を敬う気持ちを身につけてもらいたい。 ・道徳、特に社会性を育成するためには、具体的な事例による指導が望ましい。	C	
	差別やいじめを見逃さない目と、それに立ち向かう勇気を育てる。	人権週間を中心に、人権に関する学習内容の授業公開を行い、保護者と共に人権意識を高める。	児童や学校全体に差別やいじめを許さない雰囲気醸成しているか。	3.1		3.4		・同じ場で同時に目の前の課題に向かい合う問う点で、人権集会は有意義だった。日常の中での人権を大切にしようとする取組が必要である。	・まずは、職員自らの人権意識を問う研修をもつ。 ・一日の中で、どんな時・場面で人権を意識されない状況や児童がそうした場面にさらされかねない状況になりやすいかということも、児童と共に考えてみる機会をもつ。			B	・今の時代、人権週間といっても認知していない世代が多いと思う。 ・人権問題は、父母、児童等全体で常に意識することが重要である。家庭に帰ってもこの意識をもって接してほしい。	B	
	教育相談を実施し、児童理解に努める。	教育相談週間を学期に1回設け、すべての児童に対して相談活動を行う。	教育相談を通して、児童一人ひとりの理解が深まったか。	2.9		3.6		・相談週間があるほうが話ができるが、相談時間を作るのが難しい。	・教育相談を充実させるために、短縮授業を組んだり、放課後の活動や会議等を入れないようしたりする等時間の確保をする。 ・期末や大きい行事の時期以外で設定すれば、話をじっくり聞くことができる。			B	・途中でわからなくなり、遅れる子ども達も出ると思う。先生方も大変でしょうが一層の努力願います。 ・児童の状況を把握する手法としては素晴らしいと思います。先生方に敬意を表します。	B	
高め合う子	基礎基本的な知識・技能の習得、活用により学力の向上を図る。	毎月1回の計算会、書き取り会を実施する。	定着率85%が達成できたか。また、1回目と2回目の点数の比較を評価観点とする。	2.9	2.9	3.3		・学力差が大きくなっている。毎日の家庭学習の習慣とも比例した結果が出た。 ・定着には繰り返しの学習を要し、2度、3度と再テストを行う児童が多かったが、取り組むたびに点数が上がり、合格に向けて頑張っていたのはよかった。	・自作の問題を作るのであれば、問題をストックしておき次年度に活用する。 ・放課後学習で底上げを図る。	・多くの児童がおり、それぞれ個人差、能力差があるので、みんな同じには難しいと思っています。勉強に関しては、学校が主となり、問題を解く楽しさや考える力をつけさせていただけたいと思っています。 ・学習についていけない子には、居残り勉強をさせて欲しい。	・子どもの自主性を尊重し、自ら学習する努力がなされている。また、子ども達も期待に応えるように学習している。(例 運動会、学習発表会、住んでいる町の自慢探し等)		B	・基礎学習なので平等的な教育になるのは仕方なし。 ・取り組みの成果は出ていると思う。未達成の底上げが重要と思う。あきらめない気持ちを身につけてもらいたい。 ・家庭での勉強について、状況を保護者が把握する必要あり。学校と家庭は両輪。子どもの状況を伝える方法の検討が必要である。	B
	表現力(伝え合う力)を育てる授業づくりに取り組む。	ねらいや実態に応じた、ペア学習、グループ学習、全体学習を効果的に授業に取り入れる。	自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりする姿が多く見られるようになったか。	2.9	2.7	2.4	3.0	・自分の考えは話すようになったが、まだ言い放しのことが多い。	・ペアやグループでの活動の他、ワークシートやツールを活用して考えをもつ学習を充実させる。 ・ホワイトボードを活用する。 ・モデルを見せる、付箋や思考ツールを使う等、より具体的な指導でさらに集団思考の力を高める。	・宿題が少し多いかな?と思います。		C	・先日アドベンチャー教育を体験したが、こういったアプローチも良いと思う。 ・親世代もスマホが手放せない様で、対話の時間が少なく、コミュニケーション不足である。 ・児童の評価が低いということを認識し、方法の検討が必要である。	C	
	学校図書館を利用した学習活動を積極的に推進する。	学校司書並びに司書教諭と協力して、図書館を活用する学習を取り入れる。	学校図書館を活用した学習を行い、児童に活用能力が育っているか。	2.7	2.2	3.4		・回数は多くとれなかったが、調べ学習の際に活用できた。 ・資料の準備などはしていただいたが、授業の中に入っていたかどうかはなかった。	・情報活用能力の、学年ごとの指導内容や指導の時期(強化や単元)を示す。 ・見通しをもって早めに学習の準備、相談をし、効果的な場面で司書に入ってもらおう。			C	・図書館を利用した学習活動を、親が知らないのではないかと。 ・ITを活用すると便利であるが、辞書を引く機会が少なくなるので、記憶力が劣るのではないかと。 ・自分が知りたい情報を司書に伝え、情報収集の習慣を身に付けさせる。	C	
	家庭学習の習慣を身につける。	家庭学習の手引きを配付し、学習課題を与え、家庭学習の習慣を身につけさせる。	低学年20分、中学年40分、高学年60分以上、家庭学習に取り組めたか。	3.1	2.6	3.3		・少しずつ宿題をする習慣が付き始めたが、ていねいにやることはまだできない。	・学習の習慣がつくよう、児童が目標を設定し、内容を選択するなど自主的な取り組みが出る仕掛けを検討する。			B	・大人世代でもスマホに夢中で、子どもにゲームの時間を減らせるのはなかなか困難ではないか。 ・保護者の努力が必要。	C	
	特別支援教育の視点に立った学習指導を行う。	児童一人ひとりのニーズに応じた学習支援を、支援員やこサポと協力して行う。	個別の教育支援計画・指導計画が生かされたり、支援員やこサポとの連携が図られたりしたか。	3.1				・こサポや少人数を活用した個別学習を実施することができた。 ・連携の仕組みの中で、ねらいをもった支援が進められていると思うが、支援計画・指導計画へ生かすには、どう評価していくかを考える必要がある。	・授業内支援を進めるために、実態把握や支援計画や指導計画の目標や手立ての検討をしたり、支援委員会がもつと推進や具体的な取組等を行う。			B	・学校の取組(実態把握、指導計画等)に敬意を表する。	B	

元気な子	保護者と連携し、基本的な生活習慣の確立を図り、より健康的な生活ができるようにする。	学級だより、保健だより、学校保健委員会等を通して、基本的な生活習慣の確立の必要性を伝える。	児童に基本的な生活習慣が身についているか。	2.9	2.7	3.4	・学校からのお知らせや啓発についてはがんばった。また、児童全体の生活習慣には児童間で大きな差がある。 ・身体測定等でのミニ保健指導は大変有効な取組。その取組を学級で活かしてきている。	・引き続き、啓発や指導を計画的に続ける。 ・協力を得られない家庭への働きかけを工夫する。 ・保健指導のあと特に力を入れ継続して指導する。	・子ども達が学校が楽しい場所と思えるのが一番。その面では我が子は毎日楽しいと言っているのうれしく思います。登下校の安全もいつも見守ってもらえて安心して学校へ行かせられます。勉強はもちろんですけど、これ(安全安心)があつての勉教ですので、これからも安全安心で楽しい学校づくりに入れていってほしいです。	・自転車の乗り方など、たまに危険だなと思う時があります。	・あまりにも衛生面にお気を遣いすぎ、免疫力が低いような気がする。また、夜更かしする子ども(ゲームに夢中)が多い。 ・評価としては素晴らしい。但し、学校・PTA役員と各家庭には連携という点では乖離があるのではないかと。	B	B	
	健康安全についての学びを生かし、自分で危険を回避する力を育てる。	交通安全教室や保健指導を通して日常の健康安全について学習する。	自分の健康は自分で守る意識や危険を予知する力、回避する力が育っているか。	2.7			・廊下を走る児童がまだまだ多いように感じる。 ・健康についてミニ保健指導で意識が高まっている。持続したり、危険回避力は弱い児童が多い。	・ケガや歩行態度については引き続き指導を続ける。 ・やり直しさせる指導を徹底する。 ・危険の予知について、よいタイミングで(怪我が起きそうな日・状況時)各学級で一斉に指導する。			・自転車で坂道運転ができないまま大きくなるなど、リスク回避ばかりでは弊害がある。 ・学校の努力は評価するが、児童に浸透させる方法の検討が必要。	B	B	
	安全を意識し、落ち着いた態度で生活する力を育てる。	登下校や学校生活の安全について意識づけを行う。	安全な登下校や学校での暮らしができてきているか。	2.7	3.2	3.3	・安全ではあるが、あいさつなど態度が気になる。 ・けがをする児童が多い。 ・指導したことがなかなか定着しない。 ・本年度のけがの実態を見ても、安全意識を育てるという点で生徒指導面でも考える必要がある。	・高学年としての役割を、最初におさえる。 ・安全指導をくり返し行う。危険箇所について、引き続き共通理解を図り、指導する。 ・低学年の集団下校を各学年部で行う。			・学校の登下校はほぼ守られているのではないかと。 ・児童間での安全意識を高める。高学年が低学年の指導を行う。	B	B	
感じる子	あいさつや返事、言葉遣いを大切に、互いに気持ちよく過ごせるようにする。	あいさつや言葉遣い等について、目標を掲げ、強化期間を設定し取り組む。	あいさつや場に応じた言葉遣いができていることを心地良いと感じているか。	2.6	2.9	2.8	2.8	・あいさつについては、はっきりと伝える力が不足している。 ・あいさつが返せない。その子の名前を呼んであいさつすると、やっとあいさつが返ってくることも多い。	・美しい言葉に心地よさを感じている児童がいるので、その部分を掘り下げていき学級環境を整えていく。 ・学校内外でも気持ちよく暮らせるために必要なことを繰り返し児童と考える。	・生活に関しては、集団行動は学校ですが、あいさつ、はきものそろえ、返事の仕方は、家庭でもきちんと取り組むべきと思っています。 ・学校へ行ったら、自分からあいさつをする子どもがいません。登校前、出会った子どもにあいさつをしても、あいさつが返ってこない子どもがいます。恥ずかしいのと無視は違います。とても寂しい気持ちになります。	・あいさつはだいたいできていますが、声が小さい。名札をつけていない子どもがかなりいる。 ・あいさつをする子どもが少ない。 ・登下校の際、グループによって、よくあいさつをするグループ、あまりしないグループがあり、リーダーがすると皆がついてすると思う。 ・あいさつはこちらから声をかけると返ってきますが、自らというのは、照れもあるのか少ないと思います。	・あいさつは親の日頃のしつけもあると思う。 ・登校時はまだまだ元気がない子どもが多い気がする。 ・地域により差があるようで、こちらからあいさつをしてもあまり返答が返らないことが多い。 ・目的・目標を達成する手法について精査する必要がある。	B	B
	地域の「ひと・こと・もの」との直接的なかわりを大切にする。	地域に出かける、地域講師を招く、体験する、取材するなど、主体的に地域から学ぶ機会をもつ。	地域から多くのことを学びながら、感謝の気持ちやふるさとを思う気持ちが育まれているか。	3.1		2.5	・学習で地域に出る機会があり、児童は地域の方々とふれあうことができた。親しく接する姿を見ることができた。	・地域や外部講師のリストを作り、活用できるようにする。			・地域行事においても、若い世代は忙しい面もあるかもしれないが、殆ど参加しない。特に防災訓練等は家に居られても参加しない。 ・3年生「和木・嘉久志の自慢を探そう」等で接する機会があるが、より多くの児童に参加してほしい。	B	B	
信頼される学校づくり	地域コーディネーターとの連携を図り、地域の教育資源(ひと・こと・もの)を活用する。	地域の教育資源の活用を、教育計画に組み入れる。	学校からの情報発信を積極的にを行い、児童の様子や学校の取組を伝えることができたか。	2.8	3.3	3.4	・地域の教育資源についてもっと情報がほしい。	・地域や外部講師のリストを作り、活用できるようにする。	・行事を日曜日にもならせると少し参加しやすくなります。 ・江津の子は、素朴でステキな子ばかりですが、巻き込む力を身につけていけるとなお良いなあと感じています。地域や学校、家庭、小さくなっていくコミュニティの中で、協力、循環し合って、幸せ、楽しいと胸をはれる場所づくりができるような子ども達を育ててほしいと思います。		・児童が地域に興味をもち、成長してほしい。その一助をコミュニティセンターも協力する。	B	B	
	保護者と連携し、よりよい児童同士の関係づくりのために、共に考える。	電話や連絡帳などを利用して保護者との連絡を密に取り、保護者との信頼関係を築く。	保護者にとって学校が、安心して相談できる場となっているか。	3.1	3.2		・常に丁寧に対応することを心がけた。中には、遠慮があり、本音で語れないと遠回しに話す保護者もあつた。	・ある程度の距離は保ち、小さな情報にも気を配り、声が出せない保護者についてもこちらから様子をうかがうなど配慮していく。			・学校内のことはよく分からないが、先生方の努力に経緯を表す。 ・保護者との連携において、役員以外の保護者がどのように考えているかが重要である。	B	B	
	SCやSSWなど外部機関の活用を促進し、相談体制を充実させる。	SCやSSW等と保護者をつなげ、活用を促す。	希望者のニーズに応えられる、外部期間との連携になっているか。	3.1			・必要を感じる児童が在籍しており、保護者とともに教員も支えてもらっている。	・月1回または学期に2回程度、SCに全学級を見もらう。			・学校の努力に敬意を表す。	B	B	
職場づくり	報告・連絡・相談がしやすく、つながる職員集団をめざす。	児童の情報交換を密に行い、共通の認識で児童を支える。	所属感があり、日常会話がしやすい雰囲気職場になっているか。	3.2			・自分自身を振り返って、本当に必要なことを連携・相談しているかと考えるとできていない。	・職員全員での児童の情報交換の機会を定期的に取る。		・ロボット学習等で高角小学校に行きますが、先生の対応、子ども達の態度は問題ないと思います。	・「報告・連絡・相談」はどの職場においても重要なテーマである。多忙とは思いますが、よろしくお願ひします。	B	B	
	備品等の充実を図り、教育環境の充実をめざす。	職員のニーズを把握し、計画的に備品購入、廃棄を進める。	状況に応じた、教育効果の上がる教育環境になっているか。	3.2			・整理整頓は出来ているが、タブレット端末が使いづらい。	・市が行うPC整備やタブレット配置事業と相談しながら、よりよい教育環境を整えていく。			・教育に対する器材の充実不十分であり、積極的に行政に働きかけてほしい。 ・情報社会であり、十分に活用し、児童の教育に努めてほしい。	B	B	
	研修を通じて、教職員のスキルアップをめざす。	積極的に研修に参加し、学んだことを全体で確認し合い、実践につなげる。	学んだことを吸収し、日々の実践に活かしているか。	2.9			・自分が得た情報を的確に伝える事ができなかった。	・報告伝達を職員会の中に位置づけていく。			・研修が研修で終わらないように活用が重要と考える。	C	C	

3.6~4.0 A:非常によい 3.0~3.5 B:良い 2.4~2.9 C:課題がある 2.3以下 D:課題が多く速やかな改善が必要